

ふじのみや探検

第5号 源 頼朝のひみつ



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

ひみつ1 みなもとのよりと 源 頼朝 が「武士の世」を作ったの!?

そうです。鎌倉・室町・江戸と675年間続く武士の世の始まりを作ったのが、頼朝です。それでは、頼朝の一生をふりかえってみましょう。

源頼朝は、1147年、源義朝の三男として尾張の国熱田に生まれました。お母さんは、熱田神宮の大宮司の娘です。お母さんの家柄が高い頼朝は、お父さんのあとを継ぐことになりました。

平治の乱でお父さんは、平清盛に殺されてしまいました。

14才の頼朝は、伊豆の国蛭ヶ小島に流されました。それから20年間頼朝は、伊豆ですごします。その間に、北条時政の娘政子と結婚しています。

1180年、以仁王の「平家を討て」との命令を受取った頼朝は、兵を挙げ、東国の武士をまとめながらお父さんが住んでいた鎌倉に入ります。

一方、平維盛（清盛の息子）ひきいる数万騎は、駿河の国へやってきます。頼朝も鎌倉を出発し富士川で両軍が向かい合います。しかし、平家軍は、夜中、水鳥の飛び立つ音におどろいて京へにげ返ってしまいます。そのあと、義経（頼朝の弟）は、一の谷の戦い・屋島の戦いと平氏を追いつめていき、壇ノ浦の戦いでついに平氏をほろぼします。

1192年、頼朝は征夷大將軍に任ぜられて、鎌倉に幕府を開きます。翌年、全国の武士を集め息子の頼家とともに駿河の国で巻狩を行います。これが富士の巻狩です。頼朝にとってもこの巻狩が、とても楽しかったようです。曾我兄弟の仇討ちもこのときにありました。

頼朝は、1199年53才でなくなりました。

◇ことばの説明

- 尾張の国熱田・・・今の愛知県、名古屋市熱田区です。
- 平清盛・・・平家のトップ、武士で始めて太政大臣になりました。
- 伊豆の国蛭ヶ小島・・・今の静岡県、伊豆の国市 公園としてきれいになっています。
- 征夷大將軍・・・武士の最高権力者です。意味は、東に住む人を征伐する將軍です。

頼朝年表

年	できごと
1147年 <small>きゆうあん</small> (久安3年)	源頼朝、熱田でうまれる。
1159年 <small>へいじ</small> (平治元年)	父義朝軍は平氏に敗れ殺される。
1160年 <small>えいりやく</small> (永暦元年)	伊豆に流される。(14才)
1180年 <small>ちしよう</small> (治承4年)	以仁王の令旨を受け、伊豆で兵をあげる。鎌倉に入る。富士川の戦いで平氏を破る。
1184年 <small>げんりやく</small> (元暦元年)	義経、一の谷の戦いで平氏を破る。
1185年 <small>ぶんじ</small> (文治元年)	義経、壇ノ浦の戦いで、平氏を滅亡させる。
1189年 (文治5年)	義経、奥州で藤原氏に殺される。
1192年 <small>けんきゆう</small> (建久3年)	征夷大將軍に任ぜられる。
1193年 (建久4年)	駿河国富士野で巻狩りを行う。曾我兄弟の仇討ちが起こる。
1199年 <small>けんきゆう</small> (建久10年)	弟・範頼を伊豆に流す。 源頼朝なくなる。(53才)

ひみつ2

富士の巻狩は、いつ行われたの？

1193年（建久4）です。頼朝は、諸国の御家人におふれを出しました。富士の巻狩にあつまった人数は十万人でした。2010年に開かれた朝霧日本ジャンボリーに全国から集まった人が二万人でしたから、800年前に、その5倍の人があつまったなんてすごいですね。

巻狩は、広い朝霧の草原にいのしし・しか・うさぎ・かもしかなどを追い出し、馬に乗った武士が、弓矢でうちとるゲームです。1人で300匹も、とった武士もいました。このとき、頼家は、大じかをしとめたので、頼朝もたいそう満足しました。

この年に巻狩をやったということが、とても大切です。頼朝は、前の年に征夷大將軍となって鎌倉に幕府を開きました。巻狩によって、武士の力を京都の貴族に見せたり、武士たちの訓練の場としたりしました。

貴族の世は終わり、新しく武士の世が始まりました。

頼朝の泊まったところは、狩宿、馬をつないだ桜を下馬桜、陣を張ったところを陣馬の滝などたくさんの史跡があります。みなさんも一度たずねてみましょう。

◇ことばの説明

○御家人・・・頼朝に土地をもらい、頼朝の命令にしたがう武士たち。

○頼家・・・頼朝の長男、二代將軍となる。巻狩は、この頼家を御家人に紹介する場でもあった。

○史跡・・・歴史の中でのこしておきたいものや場所。



ほんが
巻狩版画

ひみつ3

曾我兄弟は、だれの仇討ちをしたの？

お父さんの仇討ちをしました。曾我兄弟のお父さんは、河津三郎です。相撲の技に「河津がけ」がありますが、その技を作った人です。

お父さんのかたきは、工藤祐経です。河津三郎と工藤祐経は、しんせきですが伊東にある土地をめぐっておたがいにお争いになりました。祐経は、家来を使って、三郎を矢で殺しました。

— みなさんは、「一生懸命」という言葉を知っていますね。この言葉は、「一所懸命」から来ています。一所（土地）に命を懸ける。武士たちは、自分の土地を命がけで守っていました。だから、曾我の仇討ちのような悲しいでき事も起こりました。—

お母さんは、曾我太郎と再婚しました。兄弟は、曾我のあとをつぎ、兄は、曾我十郎・弟は、曾我五郎と名乗りました。

富士の巻狩に来ていた工藤祐経の陣屋を夜、探し当てた曾我兄弟は、寝ていた祐経を起こし、お父さんの仇討ちをします。十郎は、その場で討たれます。五郎はとらえられ、次の日、頼朝の前で、仇討ちをしたわけを話したあと、進んで首を討たれます。

巻狩は、こんなドラマをくりひろげながら、1か月続きます。近くには、兄弟が仇討ちの相談をした音止めの滝・曾我兄弟をまつた曾我八幡宮などがあります。



あだ討ち版画

ひみつ4

頼朝が、流鏑馬をはじめたの!?

頼朝は、巻狩の時、浅間大社に参拝しました。そのとき、御家人を連れて、流鏑馬を奉納したといわれています。

これが毎年、5月4・5・6日に行われる浅間大社のやぶさめ祭りとして、今に伝わっています。みなさんも見たことがあるように、馬に乗っている人は、笠をかぶり、はかまの上にしかの皮のおおいをつけています。ちょうど、頼朝の時代の武士と同じかっこうです。

流鏑馬は、馬に乗った武士が、鏑矢を的に当てるスポーツです。鏑矢は、先が丸くなっていて、穴が開いています。矢が飛ぶとき、穴から空気がぬけ、大きな音がします。武士は、いざというときに備えて、ふだんからこのような訓練をしていました。頼朝は、武運長久・天下泰平を願って流鏑馬を奉納したということです。

頼朝のあとも、武田勝頼、豊臣秀吉、徳川家光なども、流鏑馬を保護しました。

やぶさめ祭りにも長い歴史がありますね。

◇ことばの説明

○参拝・・・神社などに行き、神様や仏様をお願いをすること。

○奉納・・・神様などに、流鏑馬やおどり・山車などを見てもらい楽しませること。



源頼朝と伝わる絵

まめ知識

『吾妻鏡』ってなに?

鎌倉時代のことを書いた本です。源頼朝から第6代将軍・宗尊親王までのことを書いています。

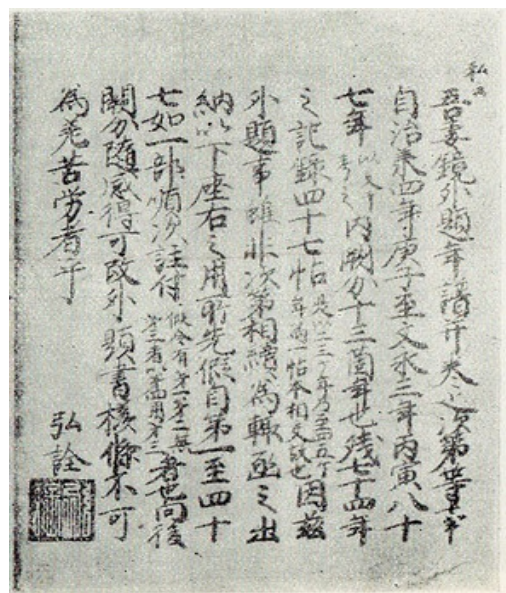
1180年(治承4)、以仁王の令旨が源頼朝にどく所からはじまり、1266年(文永3)に宗尊親王が京都につくまでが書かれています。書いた人はわかっています。一人ではなく、幕府の中心にいた武士たちが、何人かで話し合っただけで書いたようです。全部で52さつあり、87年間のできごとが年代順に書かれています。

昔のことを知るのに『吾妻鏡』のような本が残っていると、とてもたすかりますね。鎌倉時代のことが、わたしたちによくわかります。みなさんの中に日記をつけている人がいますか。それを読み返すと、小さかったときのことがくわしく思い出せますね。それがもし百年、二百年と残ると・・・

平成の人たちは、こんな暮らしをしていたんだ。と未来の人に伝えることができます。ちょっとした、タイムカプセルですね。

◇ことばの説明

○宗尊親王・・・天皇の子ども。源氏の血すじは、三代実朝で、たえてしまいます。そのあとは、京都から、皇族や貴族を連れてきて、征夷大將軍になってもらいました。



『吾妻鏡』のはじめの文



曾我八幡宮（上井出）



富士の巻狩地図



下馬桜（狩宿）



井出館（狩宿）

◇『第5号・源 頼朝のひみつ』は、次の資料をもとに作りました。

- 1 『富士宮市歩く博物館—富士の巻狩コース』 富士宮市教育委員会／富士宮市
- 2 『富士宮市史上巻』 富士宮市編纂委員会／富士宮市 1986
- 3 『富士宮歴史散歩』 遠藤秀男／緑星社 1980
- 4 『目でみる富士宮の歴史』 遠藤秀男／緑星社 1977
- 5 『富士山歴史と風土と人と』 青木茂／中日新聞社 1980
- 6 『ふるさと再発見』 佐野十三郎／岳南朝日
- 7 『歴史を旅した石たち』 沢田正彦／岳南朝日
- 8 『全譯吾妻鏡』 貴志正造／新人物往来社 1993
- 9 『絵本曾我物語とその史跡』 高月義照／伊豆物語半島協会 2008
- 10 『曾我物語』 村松定孝／ポプラ社 1991

